

【寄稿】

## 母校創立 100 周年の歩み-その記録 1-

名誉教授 西谷源展(44 回生)

昭和 2 年(1927 年)9 月 18 日に創立された母校である「島津レントゲン技術講習所」から間もなく創立 100 周年を迎える。その間、校名も「レントゲン技術専修学校」、「京都放射線技術専門学校」、「京都医療技術専門学校」、「京都医療技術短期大学」、「京都医療科学大学」と変化してきた。

日本で最古の歴史を誇る母校のこれまでを振り返り、後世にその記録を残すために 100 年史編纂委員会を編成して、目下その資料整理を行っている。これまで、記念誌としては 50 周年記念誌、70 周年史及び 85 周年史が発刊されている。以下に発刊された記念誌の発刊趣旨や概要について記述する。

### 1 創立 50 周年記念 透跡

50 周年記念誌は昭和 52 年 10 月に発行されている。記念誌の発行については、全て学友会によって計画立案された。従って、編集委員長は当時の学友会誌編集委員長であった西村健司氏(28 回生)により編集された。編集委員は長谷川 実(28 回生)、山田勝彦(31 回生)、岩井一正(34 回生)、増田寿一(35 回生)、石山 忍(36 回生)、西谷源展(44 回生)、藤田 透(45 回生)となっている。

この記念誌は、委員の長谷川 実氏の発案で「透跡」と命名された。内容は 3 章に分けて執筆されており、特に第 1 章の原稿執筆は創立された「島津レントゲン技術講習所」の当時から教員であった滝内政治郎氏である。5 代目校長であり、昭和 23 年(1948 年)から昭和 48(1973 年)まで最も長期間にわたって校長を務められたが 50 周年を迎える年の昭和 52 年 4 月に 69 歳で逝去されている。逝去される前年に病魔と闘いながら書き綴られた原稿で、本学の歴史を知る上では最も貴重なものである。同時に卒業生についても在学中の学校生活など第 1 回生から 51 回生までの在学中の思い出などがつづられている。巻末には 1 回生から 51 回生の全ての卒業写真が収められている。

### 2 島津学園 70 周年史 -診療放射線技師教育のあゆみ-

70 周年記念誌として平成 10 年 3 月に発行された。この記念誌では、京都医療技術専門学校から平成元年(1989 年)に卒業生の長年の念願であった京都医療技術短期大学が発足した経緯や、短期大学発足から 10 年目であり、更に閉校した専門学校の歴史を残すために発行されている。

記念誌の計画立案は学校法人島津学園として、編集委員長は当時の学園初代事務局長であった奥 照夫氏で編集委員として吉岡文彦(事務局長)、学友会から山田勝彦(31 回生)、後藤正季(34 回生)、厚東正之(35 回生)、西谷源展(44 回生)となっている。

短期大学設立は昭和 39 年に島津学園放射線技術短期大学として当時の文部省に設置申請をしたが、日本初の診療放射線技師養成であり準備不足もあり、設置を断念したとき以来の事であった。短期大学設置は、昭和 57 年に副校長として就任した鳥山英明氏による尽力が大きい。翌年に校長に就任以来、学友会長の清水篤三氏(21 回生)とともに横地節男理事長に短期大学設置を懇願して実現に大きく前進した。

70 周年史は特に短期大学設置の経緯や文部省との交渉過程、短期大学開学から 10 年間の詳細な状況を伺い知ることができる。この記念誌も 50 周年記念誌以後に卒業した専門学校 52 回生から短期大学 6 回生までの在学中の思い出などがつづられている。

### 3 島津学園 85 年史 -診療放射線技師教育のあゆみ-

85 周年記念誌として平成 24(2012 年)年 9 月に発行された。この記念誌は京都医療技術短期大学から京都医療科学大学に発展したことや短期大学の閉校したことなどの記録を残す目的で発行された。

記念誌の編集は 70 周年史と同じく学園主体で行われた。編纂委員長は西谷源展(教員 44 回生)、山田勝彦(名誉教授 31 回生)、埜藤眞純(学友会名誉会員 43 回生)、神澤良明(学友会名誉会員 43 回生)、廣瀬佳治(大学事務局長)、遠山景子(教員 64 回生)となっている。

短期大学当時は、短期大学から 4 年制大学への移行する学校が相次いだ。短期大学から大学に移行するには資金面など多くの制約があり実現しなかった。当時の後藤正季学友会長から島津学園の藤原菊男理事長に「母校 4 年制大学昇格への要望書」が平成 12 年 3 月に手交された。平成 16 年に矢嶋英敏氏に理事長が交代後も大学設置は島津学園の一大事業として引き継がれた。その後、政府の規制緩和政策により大学設置が可能となり、大学設置が具体化した。平成 17 年 1 月の学園常務理事会において大学設置を承認し、平成 18 年申請、平成 19 年 4 月開学で準備がされた。平成 19 年(2007 年)4 月 6 日に 4 年制大学の第 1 回入学式・開学式が行われた。この記念誌では特に、短期大学の閉校によって約 20 年間続いた短期大学の歴史及び 4 年制大学設置の交渉過程などを残すことを目的として編纂された。

現在、100 周年記念誌の編集に必要な資料の整理を行っているが、特に 1945 年から 1955 年頃の資料は紙質が

悪く、更に戦後の物資不足の影響もあり資料が少なくなっている。特にこの時代から写真なども入手しにくくなっている。創立100周年史の編纂や100周年事業については今後、卒業生のご協力を賜ることになりますが、よろしくお願い申し上げます。

以上

---

\*通巻252号 2024年7月10日発行(2024-No.3)より